



1

**YCK**テーマ **Y C K** プロジェクト  
 吉高 地域 キラメキ  
 課題解決能力を身に付けた地域の未来を担う志を持った  
 たくましい人材育てること

**MISSION**

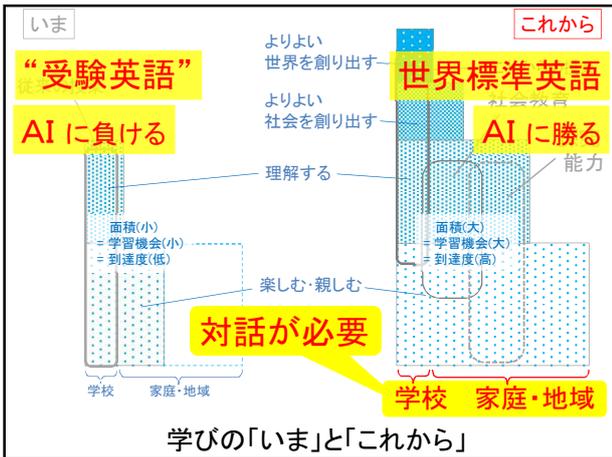
- ① 飛騨古川「三寺参り」を盛り上げよ！
- ② 次の年度に向けてさらに良いミッションにするにはどうしたらいいか考えよ！

**大切にすること**

- ・来場者、主催者、関係者の方から「ありがとう」がもらえるように自分たちで考え行動すること

YCK PROJECT 2017 三寺 MISSION

2



3

**連携が加速している高校・地域の共通点**

「どんな地域を実現するために、  
 どんな人物を育てていけばよいのか」

「そのために、どのように役割を  
 果たし合っていけばよいのか」

に焦点を当てて**徹底的に対話**し  
 ゴールとストーリーの  
**イメージを共有**できている

**次世代の成長度は大人の対話度を越えない**

4

**時代の変化と地方の活路**

**【むかし】**  
 一次産品(農水産物)を売れば生きていけた。  
 町や会社の経営も、今より楽だった。

↓

雇用創出が容易。  
 大人が地元就職先を用意してくれた。

↓

若者に高い実力は不要 **(進学する必要なし)**

5

**時代の変化と地方の活路**

**【いま】**  
 一次産品(農水産物)の競争力が大幅に低下。  
 六次産業化(農産+加工+販売)しないと  
 生きていくのに必要な稼ぎをできなくなった。

↓

雇用創出が困難。  
 自力で**起業・創業**することが必要になった。

↓

若者に高い実力が必要 **(進学する必要あり)**

6

### 起業・創業に必要な力

「広い視野」「高い専門性」「豊富な人脈」  
 （高卒や「行っただけ」の大卒では無理）  
 地元に残ることも ↓ 大切ではあるが・・・  
 いちど「ふるさと」を離れ、  
 大学等で高い専門性を身につけ、  
 感覚を磨き、人脈をつくることも必要  
 その上で帰郷 ↓ 地元で起業・創業  
 都会の大学等へ進学させる必要もあり

7

### 普通科生のキャリアパス（これまで）

【高校】 国公立大学の個別学力試験対策に注力  
 ○ 組織寄生指向（就職＝就社）  
 ○ 地元に対する愛着や当事者意識 希薄  
 ○ 地元で生きるための技能に関する理解 希薄  
 ↓  
 【大学】 「好きなこと」「安定」指向の就活  
 ○ 課題発見&解決能力は発達不全  
 ↓  
 【社会人】 都会の企業等に「所属」して、終了  
 ○ 地元に戻りたくない／実力もない（地域も衰退）

8

### 普通科生のキャリアパス（これから）

【高校】 地域課題の発見・解決する学習活動に参加  
 ○ 社会形成指向 = 起業・創業も視野  
 ○ 地元に対する愛着や当事者意識 高揚  
 ○ 地元で生きるための技能に関する理解 深化  
 ↓  
 【大学】 地元が/地元で 生きる実力の向上  
 ○ 「広い視野」「高い専門性」「豊富な人脈」を獲得  
 ↓  
 【社会人】 地元へ帰還  
 ○ 地元に戻りたい／実力も十分（地域が再生）

9

### 若者が地元へ回帰するための働きかけ

若者の地元回帰には「大人との対話」が有効  
 職場体験で「対話があった」中3生の方が  
 自身や地元に対する肯定感が高い  
 根拠： 益田市「新・職場体験」の効果検証  
 刈部 亮（大正大学地域創生学部3年）  
 地域実習（2018.9.19～10.30）の成果  
 職場体験は 大人・会社・地域の魅力を  
 次世代に伝える絶好の機会

10

### ③ 調査をもとにした分析結果

【新職場体験を通して  
働くことに対するイメージが良くなった】

①対話があると感じた      ②対話がないと感じた

133人  
143人中      15人  
25人中

93%      60%

そう思う      そう思う

■ とてもそう思う   ■ ややそう思う   ■ あまりそう思わない  
■ 全くそう思わない   ■ 無回答

11

### ③ 調査をもとにした分析結果

【新職場体験を通して  
自分は成長することができた】

①対話があると感じた      ②対話がないと感じた

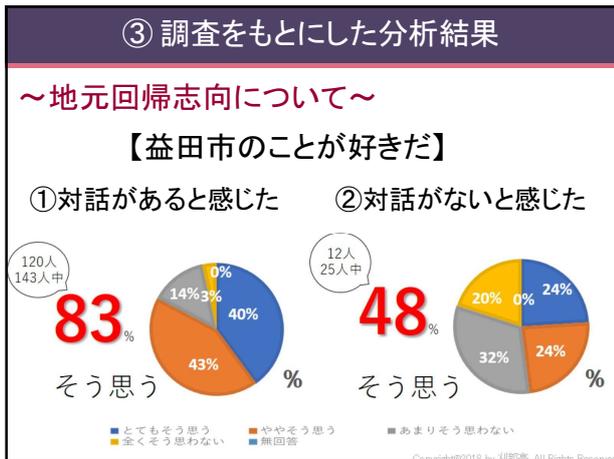
131人  
143人中      18人  
25人中

91%      72%

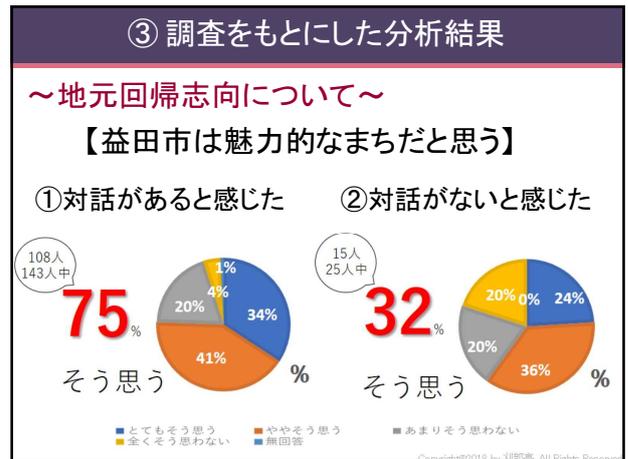
そう思う      そう思う

■ とてもそう思う   ■ ややそう思う   ■ あまりそう思わない  
■ 全くそう思わない   ■ 無回答

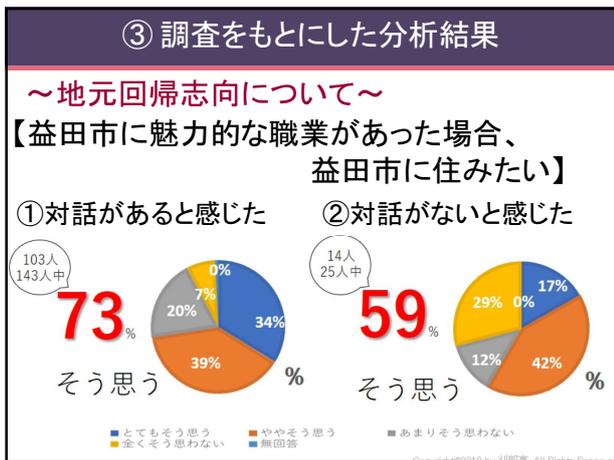
12



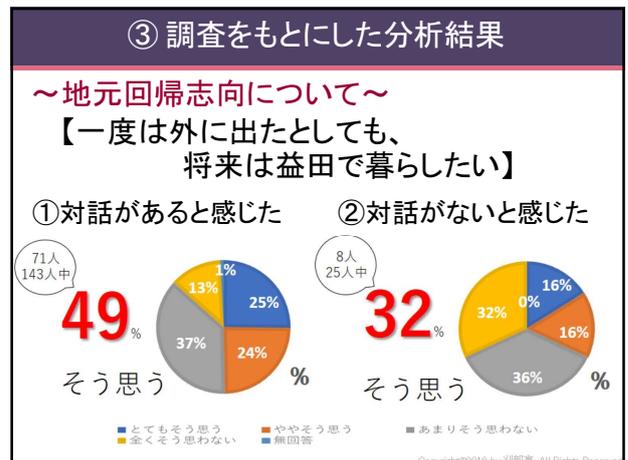
13



14



15



16

### 若者の動きは二極分化

- 高校時代まで地域から**粗末**にされてきた若者は、故郷に**未練**はなく、**戻ってこない**。  
(大学進学後に帰郷を呼びかけても遅い)
- 高校時代まで地域から**大切**にされてきた若者は、故郷に恩を感じ、**戻ってくる**。
- 市町村の教育環境をリアルタイムで交換・共有する20代女子グループも存在
- 若者が集まってくる町と去っていく町は「5年後に顕在化し 10年後に決着」と予見

17

### 産業界と教育界の連携のあり方

- 地域における企業人と高校生の交流は産業人材の育成・採用に有効
- 高校と地域をつなぐコーディネーターの雇用に企業からの協賛金は当面不可避
- 社会人基礎力を高める教育を小規模校で意図的に展開し、卒業生を優先的に採用する仕組みづくりができるとベスト

18

### 採用等に関する地元企業への調査

吉城高生の地域活動がさらに活発化すると  
飛騨市(岐阜県)の企業が抱えている  
人材の育成や採用に関する以下の問題が  
一体的に解決する可能性が高まる

元気で提案力のある若手がほしい  
人柄や能力がよく分かった人物を採用したい  
多様な年齢層の社員と関われる力がほしい

19

### 提示して 共感が得られたプラン

- ① 「吉城高生と地域行事等を活用して  
人間関係を上手に形成し、  
思いを共有することにより、
- ② 大学等へ進学した後に  
『帰郷して貢献したくなる気持ち』が  
自然に高まるようにし、
- ③ 帰省時等に交流を重ねて、  
インターンシップ等へつなげ、
- ④ その延長線上で採用が実現する仕組み」を  
みんなで作っていけないか？

20

### 高校生に投資する即効性

- 2018(高3) 地元環流候補者の育成開始  
… 進路決定者から発掘し、交流を深化
- 2019(大1) 帰省時に地元企業人と交流
- 2020(大2) 地元企業で職業体験
- 2021(大3) // + 地元企業で実習(課題解決)
- 2022(大4) 地元企業を選択&内定
- 2023(社1) 地元企業で就業

21

### 溝上慎一先生からの調査結果報告

「社会人基礎力は  
大学入学後には  
ほぼ変わらない」

大学生白書2018  
いまの大学教育では  
学生を変えられない



22

### 従来の新卒採用

- 【前提】
- ・ 社会人基礎力と学歴(偏差値)は相関する
- 【傾向】
- ・ 社会人基礎力は出身高校による差はない  
(偏差値と社会人基礎力は比例する??)
- 【仕組み】
- ・ 偏差値の高い学生を採用した方が有利

23

### これからの新卒採用

- 【前提】
- ・ 社会人基礎力と学歴(偏差値)は相関しない  
(高校卒業時までには決まる)
- 【実態&可能性】
- ・ 社会人基礎力は出身高校による差が大きい  
(偏差値と社会人基礎力は比例する??)
- 【ありうる仕組み】
- ・ 社会人基礎力を育成する力の高い高校の  
卒業者を学生を採用した方がよい

24

### ありうる未来

**【動向】**

- ・ 社会人基礎力をしっかり育成できる高校が地方の小規模校を中心に増えている（都市部の大規模校は今後も変わらない）

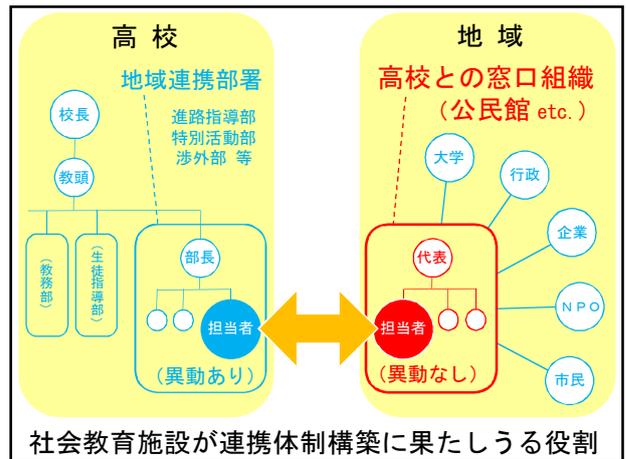
**【就職に対する優位性】**

- ・ 地方の地域連携に熱心な高校の方が有利

**【起こしうる流れ】**

- ・ 企業等が出身高校に注目して採用する
- ・ 就職のため **あえて地方の高校に進学させる**

25



26

### 過疎地域におけるキャリア形成のあり方

■ 課題も処方箋も概ね共通しているため 個々の市町村に全てを委ねるより 道機関の介在で一体的に展開するとよい

- ・ 先進例は、山形・最上地区「ジモト大学」
- ・ 「岩手の高校教育を考える市町村長懇談会」
- ・ 道内では、十勝管内で動き **今年10月15日発足**

■ 「高校・大学・地域」の三者連携を推進し 大学のリソースを地域に投入しつつ 若者の都会進出&回帰をはかる道もある

27



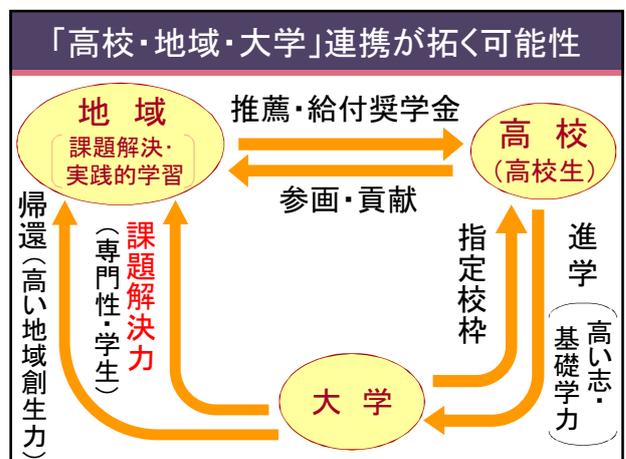
28

学校では学べない、卒業前に学んでおきたいジモトのヒト、モノ、コトを地域の大人と学ぶ講座がスタート！高校生が旅立つ前に学ぶコト。

<p><b>【講座概要】</b></p> <p>10月15日(日) 10:00～12:00</p> <p>10月22日(日) 10:00～12:00</p> <p>10月29日(日) 10:00～12:00</p>	<p><b>【講座内容】</b></p> <p>1. 地域の歴史と文化</p> <p>2. 地域の産業と経済</p> <p>3. 地域の教育と人材</p>	<p><b>【参加費】</b></p> <p>無料</p>	<p><b>【申し込み】</b></p> <p>10月10日(木)まで</p>
---	---	-------------------------------	---

今年度は 最上地区 8市町村でプログラムを展開

29



30